



特定非営利活動法人 パノラマ (神奈川県)

活動テーマ 高校内居場所カフェ

～ 先生でも親でもない大人がいる、文化的シャワー提供の場 ～

活動の概要

「すべての人をフレームイン!」を合い言葉に、貧困などから社会の枠外に追われる子どもと若者の社会的包摂を目指した活動です。また、子どもを見守る側の啓発による、教育と雇用の接続支援も目的としています。毎週木曜日に、さまざまな背景を持つ生徒が集中する神奈川県内の課題集中校で、図書館や多目的室を利用した(居場所カフェ)を展開しています。カフェでは、生徒にジュースやお菓子、お味噌汁などを無料で提供。地域のボランティア8名ほどが参加して、ゲームやおしゃべりを楽しみます。参加した生徒たちは、親や先生以外の多様なロールモデルに出会い「生きるストライクゾーン」が広がることで、生きやすさを身につけ、困難に立ち向かい、人を頼ることができるこころが育まれています。子どもたちが今後、文化的なヒト・モノ・コトとの出会いをフックに、社会関係資本に連結し、経済資本を引き寄せる豊かな人生を送ることを願い、その可能性を絶つ中退や進路未決定を防ぐことをミッションとしています。



放課後、居場所カフェのカウンターは人気の特等席に、ボランティアさんとの会話には、こころを育む人生のヒントがいっぱいです。

活動の経緯

すべての人を
フレームイン!が
目標

不安定で困難な生育環境で育つ子どもは、不登校や中退、早期離職など、社会の枠組から外れ、貧困の連鎖に陥りやすい傾向があります。愛情に暴力や無関心で応えがちな課題集中校の生徒の“こころを育む土壌づくり”として2014年にカフェをスタート。



楽器に触れる経験をしたり、学年やクラスを超えた生徒同士の交流が生まれています。

心身を満たす
カフェで
信頼づくり

空腹では、言葉も愛情も伝わりにくいため、カフェで生徒の空腹を満たし、親や先生以外の第三の大人との日常会話から「信頼貯金」を貯めています。いい大人や多様な人生に触れて社会への期待を高めることが、こころの成長と健全な就業につながっています。



スタッフとボランティア、生徒たちでゲームをしながら、信頼貯金を貯めています。

2校の活動から
12校の開催に発展

2018年の実績は、2校で計61回開催し8,753名(1回平均144名)が参加。年間382名のボランティアに協力を得ました。2018年6月開催のカフェサミットはマスコミに大きく取り上げられ、神奈川県内12校でカフェが開催されるまでに発展。ノウハウを公開し、活動の広がりを目指しています。



食べ物や楽器、季節ごとのイベントなど、文化的な経験の提供も大切な役割の一つです。

参加者の声

- 大切で大好きな場所。もはや第二の家になる。木曜日がとつても楽しみになった。最初はお菓子目当てだったけど、みんなに会えるから行きたくなるようになりました。(高校2年生)
- いろいろな人と話す中で、大人や社会、仕事の大変な印象が変わって安心し、「今のままでいい」と気づきました。大人と子どもが互いの世界を知る機会がより必要と思います。(高校3年生)
- 年齢に関係なく、いろいろな人たちと関わることができるし、ボランティアの人たちからいろいろなことが学べる、すごく楽しい場所。(高校2年生)
- 会社員や大学生、フリーランスと多彩な顔ぶれのボランティアから、生徒も大人も刺激を受けています。知識と経験と夢が交じり合い、エネルギーに満ちた場所です。(ボランティア)

3つの工夫

進め方の工夫

カフェのエピソードをフェイスブックで公開してファンができ、講演依頼が絶えない状況です。講演で活動を知った市民は、養成講座に参加してカフェボランティアに。名前を覚えてもらい、身の上話を聞いて放っておけずリピーターになることも多く、ボランティア数も拡大。生徒の満足度向上につながっています。

連携の工夫

居場所カフェの活動を、マスコミの取材記事や視察によって広く地域の人々に知っていただくことが、学校の魅力や信頼につながっています。理事長は、内閣府などの支援者養成講座の講師を務めており、教員や保護者向けの研修などへも貢献できる人材であることが、連携のポイントになっています。

継続の工夫

居場所カフェを参考に県内12校でカフェ活動が展開。2018年6月にはカフェサミットを開催し、マスコミに大きく取り上げられました。活動の周知により会議への出席が認められ、知り得た生徒情報が早く正確に共有されて良い事例が誕生。信用を高めています。継続に最も重要な課題解決に向けて、日々奮闘中です。

将来の活動の方向性

パノラマでは、法人を大きくし、校内居場所カフェを数多く運営するといった考えは持っていません。シェアメントを大切に、これまでのカフェ活動のノウハウを無償で公開し、自分たちのカフェを研修の場として開放することで、活動を広げていきたいと考えています。